

平成30年度双葉会本部事業報告・決算報告（抜粋）

総括

今年度は、介護報酬改定年度であり、「団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備を推進」を目標に+0.54%の改定が行われました。一昨年施行された改正社会福祉法と併せ、現在の社会福祉法人に求められている形を具現化すべくこれらに積極的に取り組むとともに、琴清苑新築事業に向けて、計画書の提出、現地調査、協議書の提出、2回のヒアリングと今年度6月に内示を受けられるよう準備を進めた年度となりました。公益的な取組にあたる配食サービス、送迎事業については伸び悩んでいるものの継続して事業の展開を図って行きたいと考えています。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で96.3%、琴清苑で98.1%、短期入所事業では寿楽荘114.4%、琴清苑95.1%という結果であり、概ね計画通りの実績を残せたものの、入所待機者の著しい減少、要介護度の制約等課題となっています。しかし、稼働率の変動はそのまま事業活動の結果に直結するものであり、これからも年間を通じ高い数値を維持できるよう努めて行きます。また、看護・介護職の人材難が深刻であり、知恵をしばり雇用対策の強化を図っているところです。EPA介護福祉士候補生2名の受入れも、将来的な雇用対策の一環です。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果が徐々に出てきている傾向が見え、上向きの決算状況となっています。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、後任の医師確保に苦慮している状況が続いています。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ体制強化を図って行きます。

ともあれ各施設において、法人の理念である「心の福祉」の周知に努め、社会貢献事業の充実・強化、職員処遇改善・育成、再雇用制度の充実に取り組み厳しいながらも安定した運営に努めました。

詳細は事業報告書をご一読ください。

財産目録		平成31年3月31日
資産・負債の内訳		双葉会本部
資産の部		***
1. 流動資産		***
	流動資産合計	39,159,323
2. 固定資産		***
	固定資産合計	95,092,636
	資産合計	134,251,959
負債の部		***
1. 流動負債		***
	流動負債合計	10,000,000
2. 固定負債		***
	固定負債合計	0
	負債合計	10,000,000
	差引純資産	124,251,959

拠点区分貸借対照表			平成31年3月31日
			双葉会本部会計
		借方	貸方
流動資産	39,159,323		
固定資産	95,092,636		
資産の部合計	134,251,959		
流動負債		10,000,000	
固定負債		0	
負債の部合計		10,000,000	
基本金		0	
国庫補助金等特別積立金		0	
その他の積立金等		0	
次期繰越活動収支差額		124,251,959	
純財産の部		124,251,959	
負債・純財産の部合計		134,251,959	

拠点区分資金収支計算書			(自)平成30年4月1日 (至)平成31年3月31日
勘定科目		双葉会本部会計	
決算の状況	事業活動	事業活動収入計	300,753
		事業活動支出計	3,847,512
		事業活動資金収支差額 (-)	-3,546,759
	施設整備その他活動	施設整備等収入計	0
		施設整備等支出計	0
		施設整備等資金収支差額 (-)	0
	その他の活動	その他の活動による収入計	26,964,600
		その他の活動による支出計	17,114,600
		その他の活動資金収支差額 (-)	9,850,000
		予備費支出 ()	0
当期資金収支差額合計 = + + -		6,303,241	
前期末支払資金残高		22,856,082	
当期末支払資金残高 (+)		29,159,323	

会計方式は平成24年6月に「新会計基準」へ移行しています。また、監査報告書はHPでご確認ください。